

“心を鬼にする”

節分、そして早くも立春です。とはいっても、寒さは厳しく、春はまだまだといった感じです。

第6波が猛威を振るっています。皆様、体調はいかがですか。いくつかの学校で学級閉鎖となっているようです。学級閉鎖にならずとも、学校の行動基準における「レベル3」の対応が求められ、学習活動に影響が出ています。特に、体育、音楽、家庭科など実技を伴う学習は、制限があって大変です。向かい合って大きな声を出さない。リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習は避ける。「一人でこつこつできるもの」に切り替えて…。といっても限界があります。子どもたちの学習の場をこれ以上奪わないで！と叫びたい気持ちです。それでも、金小の子どもたち、元気いっぱいです。休み時間には外で遊んだり、体育館で走り回ったりしています。業間のなわとびもみんな頑張っています。見ているだけでうれしくなります。まさしく、子どもから元気をもらう、そしてまた、子どもに返す。だからこそ、コロナ禍でも、まず私たち教職員が元気で明るく希望をもって子どもに接しなければと強く思います。



以前、テレビを観ていたら、「心を鬼にする」という話をしていました。ある運動クラブの話でしたが、子どもたちの才能を開花させるには、「心を鬼にして」指導するというのです。

「心を鬼にする」とは「他人に対して、かわいそうだと思いながらも相手のために思い、厳しい態度をとる」という意味です。平気で辛く当たっているのではなく、「相手のために思って」心を痛めながら厳しくしているのです。そうでなければ「心を鬼にする」ではなく、単なる「鬼」です。

今年度もあとわずかとなりました。義務教育の9年間のうち、6年間の小学校での育ちは大変重要です。ですから、学校では毅然とした態度で指導しなければならないことがあります。その子にあった方法で「誉めて励まし」「話をよく聞いて」たまには「心を鬼にして」指導を行ってまいります。

これまでの子ども一人一人の育ちを振り返り、ベストな状態で進学・進級できるよう、教職員一同がんばります。ご協力をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止に係る新たな対応

福島市教育委員会より通知がありましたので、次のように対応します。

- 1 子どもの同居家族が濃厚接触者に特定された場合、同居家族、本人に一切症状が見られない場合に限り、登校することができる。（この場合の症状とは、のどの痛み、咳症状等の軽い症状を含む）
- 2 濃厚接触者と判断された子どもは、自宅待機となる。
（陽性者との最終接触日の翌日から7日間）
その間に何か症状が出た場合は学校に連絡。→学校より保健所に連絡。PCR検査。
※咳、発熱等の症状が出た場合のみPCR検査を実施。
- 3 学級から陽性者が出た場合（一人でも）、学級閉鎖とする。